

キャスト紹介



虎丸長者 堀本 孝身
春姫の母・彩女(采女) 西川 由喜
橘三千代 酒井 瞳
帝(聖武天皇)・安積の村人1 山田 五郎
美努王・若足 緒方 賢史



安積の村人2 富田 信二
安積の村人3 川口 委呉子
初瀬(采女) 川崎 佳世
弥生(采女) 西元 完代
和女(采女) 西川 果菜

〈エキストラ〉

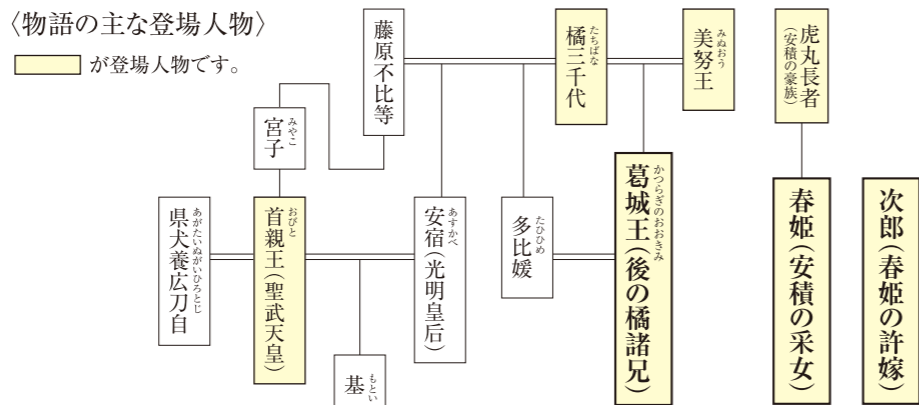
- 帝家臣1・・・佐藤 浩之
- 虎丸家臣1・・・植村 光伸
- 虎丸家臣2・・・岡田 邦彦
- 葛城王家臣1・・・清水宗一郎
- 葛城王家臣2・・・安田 勝彦
- 采女1・・・池崎加寿子
- 采女2・・・日吉 知美
- 葛城王女官・・・西本 聡美
- 虎丸下女1・・・南浦 洋子
- 虎丸下女2・・・堀 マキ
- 虎丸下男1・・・虎杖 徳明
- 安積里人1・・・植村 健治
- 安積里人2・・・高橋 久雄
- 安積里人3・・・志賀 正美



葛城王(幼少)・ユキ 石田 沙音璃
春姫(幼少)・サキ 光井 美樹
次郎(幼少)・ユメ 中川 愛歩

〈物語の主な登場人物〉

■ が登場人物です。



うねめ 采女物語 — あさか 安積の春姫 —

あらすじ

今から一三〇〇年の昔、安積の里(現在の福島県郡山市)は度重なる冷害による凶作で、朝廷への年貢米が長く滞っていた。

按察使(朝廷の使い)としてこの里を訪れた葛城王は、年貢米を免除するかわりに、郡司(郡を治める地方官)の娘である春姫を朝廷への采女(天皇や皇后に近侍し、食事など、身の回りの雑事を専門に行う女官)として献上するように強要する。しかし春姫には生涯の愛を誓った許嫁の次郎がいた。国を救うため、奈良の都へ旅立つ春姫。次郎と春姫の行く末は…。



郡山市の花(春姫と次郎の恋の花)「花かつみ」挿絵・横井祐子



葛城王(後の橘諸兄) 菅佑亮

春姫(安積の采女) 紙谷一帆

次郎(春姫の許嫁) 梶本亜希

- 企画制作・・・劇団高円
- プロデューサー・・・川口充弘
- 脚本・演出・・・綿井朋子
- 演出助手・・・富田信二
- 台詞指導・・・高橋晴子
- 所作指導・・・立花青昇
- 歴史考証・・・大場義昭
- 舞台監督・美術・・・吉田 顕
- 照明・・・葛西健一
- 音響・・・宮田充規
- 映像・・・出口雅之
- 字幕・・・イクボプロ
- スチル写真・・・小林水二
- 記録・・・八木哲夫
- 衣装・・・豊田定男
- メイク・・・山口千代子
- メイク・・・川崎佳世
- デザイン・・・故 横井紘一
- 和女の歌作者・・・池本菜穂子
- 〔挿入主題曲〕
- 安積山の歌
- 作曲・編曲・・・桐山秀樹
- 歌・・・紙谷一帆
- 〔オープニング・エンディング曲〕
- 安積山の歌
- 作曲・編曲・・・湯浅譲二
- 歌・福島県立安積黎明高等学校合唱団
- 福島県立安積高等学校合唱部

- 采女物語・安積の春姫
- 公演実行委員会
- 実行委員長・・・森本勝也
- 劇団代表・・・川口充弘
- 副実行委員長・・・出口雅之
- 広報部長・・・魚谷和良
- 物産部会長・・・服部久和
- 委員・・・小林茂樹
- ・・・植村佳史
- ・・・乾 昌弘
- ・・・山口尚紀
- ・・・植原一光
- ・・・森 誠康
- ・・・西久保繁巳
- ・・・鷺見哲男
- ・・・村井敬一
- ・・・河野良文
- ・・・植村 脩
- ・・・駒田文雄
- ・・・池内 裕
- ・・・宮田康弘
- ・・・大場義昭
- ・・・富田信二

「采女物語・安積の春姫」公演にあたり

奈良の市民劇団・劇団高円が平成二二年一月の「高円山物語・影媛」に続いて、古代歴史舞台劇の第二弾「采女物語・安積の春姫」を多くの方々のご理解とご協力をもつて本日公演をさせていただきましたことになりました。

奈良市と福島県郡山市とは采女祭りの縁をもつて昭和四六年に姉妹都市の締結をし、その後毎年両市で催される采女祭を以つて行政や観光業界はもとより多くの市民交流が重ねられてきたことはよく知られているところです。

この度、郡山市は不幸にも東日本大震災と原発事故という二重の大きな災害に被災され、未だ終息の目処の立たない状況下で、言葉では言い尽くせないご苦労をされておられます。私たちはこのような大惨事が起こるとは予期もせず、震災前からこの「采女物語」の劇化を計画し、郡山市の仲間と準備をしておりました。長期化が予測される郡山市の復興に、私達の支援の気持ちを風化させない為にもこの物語を完成させ、少しでも支援のお役に立てればと思いい本公演を実行する事になりました。

又、安積の物産市(こおりやま観光物産フェア)も同時開催させていただきました。

この事がきっかけで両市の友好関係がより深まり、両市民が今に伝わる歴史を学びそして互いの郷土に誇りを持つていただければと希望します。

